



## インドネシア人の 年越しの祝い方

今年も、あっという間に12月になりましたね！  
皆様は、年末年始の過ごし方を既に決めて  
いらっしゃいますか？

個人差はあると思いますが、概ね一週間の  
長い休みになりますので、この機会に遠くへ  
足を運ぼうと考える方は少なくないと思いま  
す。それは、ここインドネシアでも同じで  
す。気の早いインドネシア人の多くは、この  
連休を過ごすための予定を既に決め始めてい  
ます。ジャカルタ、バンドン、スラバヤのよ  
うな大都市を離れ、バカンスを満喫するため  
に彼らの多くは、南海の島々へと向かいます。

今回は、我々のインドネシアでの年末年始  
の過ごし方を、皆様へ紹介したいと思います。

### 1. 初日の出を見に山に登る。

インドネシアには、山登りを楽しめる山、  
例えばプロモ山、イジェン山、ケリムツ山な  
どの山々があります。多くの人々が大晦日に  
山を登っているのを見ても、驚くに値しませ  
ん。元旦の初日の出を拝んで、新年の新たな  
望みや運勢が上がることを祈願するのです。



私自身も、大都市で年越しの花火の乱舞を見  
るよりも大いに魅力を感じます。初日の出を  
眺めると、なぜか心が穏やかになります。私  
がイジェン山の初日の出の時に撮った写真を  
ここに紹介します。

### 2. バリ島で羽根を伸ばす。

バリ島は、正月を祝う多くの人々にとっ  
て、間違いなく最も刺激的な目的地です。バ  
リ島の名物は、野外で行われる騒々しい音楽  
やダンスではありません。島の自然と相  
まった日の出もとても神秘的です。また、年  
越しをするために、世界各地から多くの人が  
集まって島全体が賑やかになります。クタ、  
カング、ジンバランのバーやクラブでは、カ  
ウントダウン・パーティを楽しむことができ  
ます。バリ島の大晦日の定番となった深夜の  
花火は、ホテルやショッピングモールからは  
もちろん、各個人でも花火を打ち上げている  
ため、夜中のビーチ沿いはものすごい数の花  
火の景色に圧倒されます。もちろん、火を扱  
いますので火事や事故には注意が必要です。  
バリ島で、穏やかな休日を過ごしたいのであ  
れば、島の各地で一般向けに開催行されてい  
る伝統文化のパフォーマンスに皆さんも参加  
することができます。

### 3. 都心でバカンスを満喫する。

お正月の東京の街中は人影が少ないと思  
います。ここジャカルタ市も、東京23区よりも  
人口が多くいつも混雑しているのですが、お  
正月になると少し落ち着きます。ジャカルタ  
市に住んでいる人々は実のところ、この時期



(出所: <https://theculturetrip.com/asia/indonesia/articles/how-to-spend-new-years-eve-in-bali/>)

にゆったりした都市生活を満喫するため、市内に留まりたがる人達もいます。ジャカルタ市内のホテルは、有名なバンドによるミニ・コンサート、スタンドアップ・コメディ、プール・パーティーなどを開催しており、もちろん花火も欠かせません。ジャカルタの中心にある「Bundaran HI」(歓迎の塔)を囲む有名なロータリーにはいくつかのホテルがあります。例えば、グランド・ハイアット・ホテルやマンダリン・オリエンタル・ホテル、ケンピンスキー(旧ホテル・インドネシア)などでは正月のイベントを大いに楽しむことができます。

#### 4. 家族とバーベキューを楽しむ。

お正月は、友達や恋人とも過ごしますが、もちろん家族とも過ごします。インドネシア人は、家族間の繋がりをとても大切にします。私達は、大晦日に両親や祖父母の家に集まり、テレビのカウントダウン番組が始まるのを待ちながら、ステーキやチキン、ソーセージを焼いてバーベキューを楽しみます。大人達が、お酒やお茶を片手に家の中で会話を楽しむ一方で、子供達は庭で花火をして遊びます。



(出所: <https://www.kompasiana.com/dani2010/551b80a1a33311fa28b65954/bersama-ibu-melihat-pesta-tahun-baru>)

静かで神聖な日本の新年の祝い方とは異なると思いますが、このように活動的なインドネシアのお正月はいかがでしょうか。皆様におかれましては、よい年末年始をお過ごしいただき、そして素晴らしい2019年をお迎え下さい！

#### 著者紹介

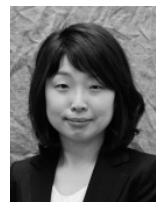


Mr. Emirsyah Dinar  
(エミルシャ・ディナル)

GIP ASEANインドネシアオフィス(AFFA)アソシエイト。1991年ジャカルタ生まれ。ニュージーランドのヴィクトリア大学卒業後、インドネシアのガジャ・マダ大学院卒業。

2014年より知的財産分野のキャリアをスタート。商標と特許担当。2016年コンサルタント試験合格。2016年よりUnited GIPsグループに参加。趣味は、ラグビー、サッカー及び旅行。

#### 編集者紹介



魯 佳瑛 (ノ・カヨン)

日本弁理士、新樹グローバル・アイピー特許業務法人所属。1981年韓国ソウル生まれ。ソウルの成均館大学卒業。2006年よりソウルの特許事務所にて知的財産分野のキャリアをスタート。結婚をきっかけに来日。

2014年日本弁理士試験合格。専門は、商標・意匠・著作権。夢は世界一周。